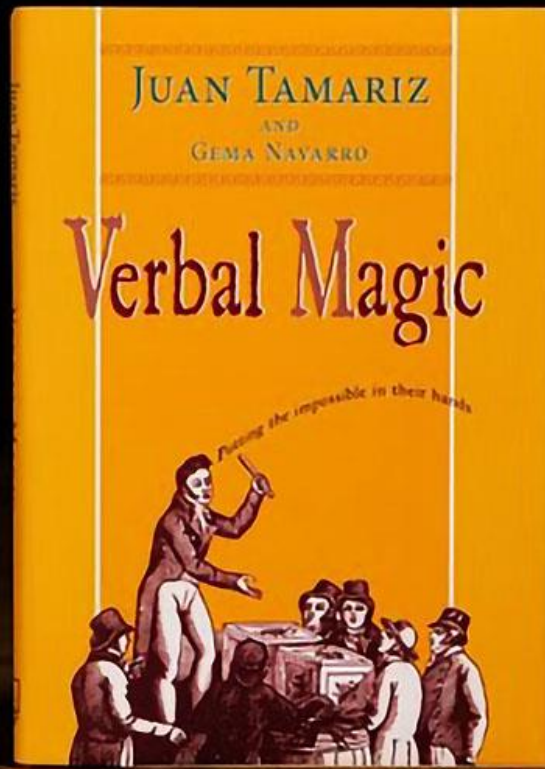


タマリッツの バーバル・マジック



言葉のテクニック：マジック



Verbal Magic

By Juan Tamariz

and Gema Navarro

言葉のテクニック：マジック

< **日本語解説書** >

(訳注：この本は 2005 年にスペインで初版が刊行され、昨年 (2020 年) に PENGUIN MAGIC が英語版の権利を取得し、再版されたものです。内容は、JUAN TAMARIZ が、かって 1 年間にわたってラジオ番組で、スタジオの観客と全国のラジオの前の聴取者に対して、「言葉のテクニック」によって演じた 35 以上のマジックを収めたものです。つまり、「スライハンドなどのテクニック」は使わず、BOB HUMMER の CATO や GILBREATH PRINCIPLE などを駆使している、基本的にはセルフワーキングトリック集です。「セルフワーキング」と言っても、TAMARIZ 流にひねったやり方をうまいプレゼンテーションで包んでおり、TAMARIZ によれば「RITUALS AND SPELLS」、すなわち「古からの儀式と呪文」によって可能となるものです (訳文では適宜、「秘術」「古から伝わるやり方」などと言い変えています)。

いずれにしても、コロナという特殊要因によって定着しつつある「リモートマジック」を、15 年も前に実践していた TAMARIZ の着想と努力に感服するばかりです。ラジオという制約からハンドリングが複雑化していたり、とても大胆と思われるやり方のものもありますが、TAMARIZ の明るい、たたくみかけるような進行で乗り切っています。したがって中には、我々では、単純であるがゆえに演じるのが怖いようなものもありますが、読者もきっと「これは良い」と思うトリックを少なからず見つけられることでしょう。

また、この本には随所に「HISTORY (小史)」という補足説明がついており、それぞれのトリックで使われている原理の考案者や出典などについてコメントされています。これもまた最後の参考文献の項と共に、セルフワーキングファンのみならずカードマジックファンには、興味ある情報だと思います。

それではどうぞ、彼の「RITUALS AND SPELLS」、古からの魔法の世界をお楽しみください)

GENESIS(事の始め一要約)

JUAN TAMARIZ

私は 1970 年代の始めからテレビに定期的に出演するようになり、その結果ラジオでもたびたびインタビューを受けることにもなりました。当然私はラジオを通してトリックが出来るのか、あるいはそれは不可能か?と何回も聞かれました。

私はいつも「不可能」という言葉を聞くと、「不可能」なものなど本当にあるのかと反発したくなるのです。それが、私がマジックが好きで、人生をそれに捧げた理由だと思います。マジック、それはたとえ「作られた現実」であったとしても、「不可能」を可能に見せ、「かないそうもない」望みや夢を現実にして見せてくれるアートなのです。

そして「不可能」というたった 1 つの言葉が、私にラジオ番組でもマジックをやらせることになったのです。しかし問題が生じました。つまり、ライブではない場合、ラジオを聞いている人との双方向のやり取りが出来ないということです。どうしたら良いのかと考えさせられました。

そこで、ラジオやテレビの前の客が、私からの双方向のやり取りの指示が無くても、ステップバイステップでついて行けるようなトリックのやり方を考えたのです。

それによって P.54 の「FOUR ACES」が生まれ、カードが本当にミックスされたように見える一連のカットの後で、客に知られずにカードの位置をコントロールする「THE REVERSED—CARD PRINCIPLE」も生まれたのです。後者は、客には完全に選んだカードが見失われたと見えますが、カードトリックで使われる通常の、1 枚あるいは数枚のカードコントロールの役を果たすものです。

それから客に今やった行動を忘れさせるようなやり方も考えました。これは何気なくある行動をさせたら、間を置かずにはだちに次のより明確な行動をさせて強調するのです。記憶の法則により、前の動作が記憶から薄れて行きます。また、セリフの「曖昧さ」を利用したり、実際にあったことを外したりなかったことを挿入したりして偽りのRECAP（今までやったことを言葉で振り返って見せること）をしたりもするように考えました。

その頃私は、「THE IMPOSSIBLE IN YOUR HANDS」や「FOUR ACES」（P.9と53）を考案し、そこからさらに「IN SEARCH OF THE DESIRED HAREM」（P.50）が生まれました。1980年代初頭には「PARADISE RECOVERED」（P.38）を考案して、全国ネットのテレビで演じました。13枚のカードで行うヴァージョンはやや長いのですがとても好評で、いろいろな国の劇場やテレビ番組で何百回となく演じてきました。

長い間にはこんなこともありました。COLOMBIAの300人からの観客の前で行ったテレビでの演技で、観客達が手に持ったカードを宙に投げて1枚の「ラッキーカード」が観客達の手に残るはずであったのが、私の指示がうまく伝わらず、違うカードが残ってしまったのです。私は「もし本当にそんなことが出来たら、素晴らしいですよ？」と言うしかありませんでした。しかしユーモアを解する尊敬すべきCOLOMBIAの観客達は、そのセリフを受け入れてくれて、私は救われたのです。幸い、別な日にそのトリックを繰り返して成功したので、こうしてお話し出来る訳です。

1980年代には定期的にそうしたものをラジオやテレビで行っていました。BARCELONAでのキッズショーでは、キッズが最後に鏡の前でマジシャンと入れ替わるというトリックをやりましたが、それさえも鏡の前に置いたビデオテープからの私の指示で行われたのです。

こうしたやり方がいろいろな演技環境の中でうまく行くことに、私は驚きました。どうしてだろう？その答えは次第に明らかとなりました：「客が自分ですべてをやるから」です。マジシャンはまったく手を触れないのです。自分の手の中で現象が起きたら、客の驚きは何倍にもなります。しかし、そのような経験をした客の1人が後に、「家に1人でいるのが怖かった」とまで言った時は、うれしくもあり、効果があり過ぎたかと複雑でした。

2003年にはPABLO MOTOSのラジオ番組に毎週出ないかと誘われました。これは私にとって、いろいろ試す良いチャンスでした。通常の「電話を通じて行うマジック」とは一味違う、客の手の中でマジックをやるやり方を毎週試したのです。

ただ、それまでには数か月にわたるリサーチと新スタイルへの適用性、更なる仕上げが必要でした。その結果、毎週毎週トリックを演じながらPABLOの番組で1年を過ごしましたが、その間に私はいろいろと学び、成長し、良い方向に進んだのです。とりわけ私は、私のセリフをどうより良く使うか、どうしたら明確な指示を与えられるか、どうしたら「インチキではなくまともなものを見ている」との確信を客に持ってもらえるか、どうしたら感情と興奮に満ちたユニークな二度とない経験を客に感じてもらえるかを学びました。

結局、私の他の仕事が忙しくなってきたことと、視聴者の方も1年間を堪能したのでいったん休憩した方が良さだろうと思ったことから、この番組からは降りました。しかしながら、そういったスタイルのマジックに対する私の興味は静まる事はなく、それらに対する研究と最も良いアプローチの道を探し続けました。この本を準備している間もGEMAとの無数の会話の中で、私はそれらのマジックをよりエフェクティブ（効果的）で判り易いものにするテクニックを磨いてきたのです。

その成果を皆さんが楽しんでくれることを心から望みます。

A FEW WORDS FROM GEMA

(GEMA からひと言一要訳)

2003年6月にJUANと面接してすぐに、彼は私をライターとして雇いました。最初はこの仕事は簡単で、海岸にある家で夏の午後に片手間で出来ると思っていました。そしてこのマスターマシンと一緒に仕事をするのは、やりがいのある経験だと思いました。

仕事内容は、M-80チャンネルのラジオ番組「NO SOMOS NADIE」の彼のオーディオテープを文章に書き起こすことでした。私は試しに何本かのテープを訳してみようと思いました。彼が気に入らなかったとしても、海岸で太陽と昼寝を楽しみ、7月の陽に肌を焼けばそれで良いと考えていたのです。

JUANが最初によこしたのは「LIVE WITH THE DEVIL」と「JOY AND PLEASURE」でした。彼がなぜこの2本を選んだのかは判りませんでした。魔法の女神が我々に魔法をかけるために、この何かを予感させるようなタイトルのテープをよこしたのかもしれない。

こうして私は、これから先待ち受けるものを気にすることなく、テープをハンドバッグに入れてスーツケースを持って、家族のいる家へと向かいました。私は着飾ってハイヒールをはき、飛行機の切符を持ってどこかに飛んで行く訳ではありませんでした。何のプレッシャーも感じない、誰も私の静かな息遣いを邪魔することのない場所、私の実家に落ち着いたのです。

そこで初めて軽い調子で、テープでJUANの第1声を聴いたのです。奇妙な感覚にとらわれ、私はJUANの言っていることが最初はよく判りませんでした。静かな家の中で彼のたたみかけるような声を聞くということが何かしっくりこなくて、その感覚を乗り越えることから始めなければならなかったのです。テープは周り続けます。再生を中断し、また開始します。これを繰り返しても彼の声はまったく関係なく、変わらず熱狂的な調子で延々と続きます。しまいには、これ等のテープを全部書き起こすなどということが出来るだろうかとも考えました。

それでもこの仕事を何とかこなさなくては、と気を取り直し、彼がテープで叫んでいるトリックをやってみることにしたのです。きっと面白いに違いない、そしてそれを紙に表すのに役立つと信じて。彼はプレイングカードのデッキを1組用意するようと言っています。私の家族はカードゲームをしないのですが、ようやく1組のデッキを見つけました！何枚か足りないかもしれませんが・・・。

私にはスタジオの観客の熱狂が伝わらないまま、懐疑的な気分のままにカードを手を持ちました。結局のところ、私は仕事であり、彼等は遊びに来ているのです。言われるままにカードをカットしたり、配ったり、ミックスします。こんなやり方でトリックが出来るのでしょうか？ついでにもう1回カットしてやりました。

トリックの終りには、テーブルに2枚のカードが裏向きで残りました。「上のカードを表向きにしてください」とJUANが叫びます。開けます。WOW！何とそれは「6」です！「もう1枚も表向きにしてください」・・・「9」です！私には信じられませんでした！（訳注：GEMAが驚いたのは、スタジオの観客も全員「6」と「9」を手にするからです。このトリックのタイトルは「JOY AND PLEASURE」であり、「6・9」は大人の密やかな喜びを象徴している数字です。訳者に説明出来るのは、ここまでです）

あれだけカードを混ぜたのに、どうしてこうなるのか？やったことすべては、クリーンでフェアです。私は頭を冷やすために、カードを散らかしたまま父親を連れて海岸に飛び出していました。

この体験に刺激され、私は6時間をかけて手元のテープから紙へと書き起こし、その結果を JUAN に渡しました。彼が気に入るかどうかは判りませんでした。それでも、さらなるテープが送られて来ました。そこで私は、紙に書く前にテープのトリックを自分で一度やってみるという仕事のやり方に決めたのです。

しかし、静かな家の中で来る日も来る日も JUAN の強力な声を聴き続けていると、神経には応えませんでした。テープだけでなく、電話からももちろん同じ声の流れが来て、私の頭の中ではいつも JUAN の声が渦巻いている状態でした。1 つのテープの翻訳が終わると、頭の中の声も消えるのですが、それが何度も繰り返されました。

また別の問題も発生します。私の書いたものを見た JUAN は、「そんなことを言ったか？」とか「そんな言い方をしたか？」などと言うのです。私が「そうです」と言うと、彼は「では、それは変更しないとダメだな。えーとー・・・」と始まり、私の仕事が増えるのです。

それでも、すべてのトリックについてのラフな原稿が出来上がると、JUAN は私にセリフを修整する権限を与えてくれたのです。その観点から見ると、あるトリックは完成されていますが、あるものはまだ手を加える余地がありました。また原稿を修整して行く過程で、私は自分が初めてそのトリックをやった時に感じた感情や興奮、不思議さが十分に文字で伝えられていないと思いました。それこそが伝えるべき一番大切なことなのに、です。「カードをボトムに入れ、2枚配り、カットしてシャフルして・・・」と延々と続くわけです。まるで家庭料理の教科書のようなものでした。私は物事を中途半端にしておけない性格なので、すべてを見直すことにしました。

それは、最初は簡単な仕事ではありませんでした。例えば、スタジオの客の反応に対して返す TAMARIZ の生のアドリブを表現する事などです。それを適格に表現するためには、私の頭脳をフル回転させなければなりません。当時はまだタイトルの付いてないトリックもあり、その名前も考えたり、また私の誤操作から私の古いコンピューターが壊れてしまったりもしました。

しかし、苦しんで取り組んでいるうちに、不思議なことに次第に JUAN の言葉を文字に表すことが楽しく、またやりがいのあるものになって来たのです。彼のセリフを発展させたり、放送時には不十分であった部分を補ったり、余分と思われる言葉を省いたり、知恵を絞りました。そうした作業の結果に、私は満足感を覚えるようになっていました。

私自身も経験を積んでくるにしたがって、これまで私が行った修正や調整が適切であったかどうかも見直して判るようになってきました。あるものは全面的に改訂し、あるものはそのままとしましたが、この一連の作業こそが、この本に対して私が行った最大の貢献だと思っています。

放送時のテープがようやく今の形となったところで私達は、放送ではやらなかったが JUAN がよくやる5つのトリックを加えることにしました。それは、最後の2つの章に、読者の VERBAL MAGIC への意欲を刺激するであろういくつかのアイデアと共に収録しました。

私は、こうした類のトリックを考え、紹介する TAMARIZ の試みは、クローズアップマジックの世界における1つの重要な先駆的チャレンジだと思います。彼は、客自身のやることで客自らを不思議がらせますし、またマジシャンとのディナーの後の演技にもこうしたマジックをやり始めて、マジシャンをも驚かせています。マジシャン達も使われている原理やコンセプトは知っているはずなのに、その構造と内容を彼流にひねってマジシャン達をも不思議がらせるのです。

私は、あるカードが彼自身の手によって現れた時の GAETAN BLOOM の驚き様は忘れられません。彼の受けたインパクトの大きさに私は驚きましたが、それは例外ではありませんでした。他のマジシャン達も同様に不思議がりましたが、TAMARIZ に「そうすることで、あなたはフォールス

シャフルをやったのさ」とか「今あなたはファローシャフルをやったのだ」と説明されると、もっと驚いていました。

この本は、疑いもなく MAGICAL BOOK です。その何気ない文章の裏には、多くのマジックの知識とパワーが隠されているのです。もちろん同時に、この本は VERBAL MAGIC の専門書でもあり、言葉が「不思議さと楽しさ」をもたらすのです。1つ1つの小さな言葉が秘密の使命を帯びています。あるものは指示に使われ、あるものは客の記憶に入り込み、またあるものは夢を運びます。そしてあるものはトリックを仕掛けて、マジックを成立させるのです。

現時点でこの本を持っているのは世界で私だけであり、何度も何度も内容を確認し、トリックも試してみました。ライブでの客はいませんが、私自身がだまされ驚いています。JUAN がそれらのトリックをどのようにして本当の魔法のように感じさせるのか、その答えはこの本の頁の中にあるはずですが、その奥深いところまでは判りませんが、今では私も魔法にかかりたいし、それを素直に楽しみたいと思っています。

私はマジックには無知ですが、馬鹿ではないので、これ等のトリックを構成するのに、TAMARIZ がどれほど彼の貴重なマジックの知識と創造力、経験、さらに私がうかがい知る事も出来ないようなものを注いで来たかは判ります。この「VERBAL MAGIC」は、私が全面的に関わった最初の本であり、それに貢献し完成させたことを心から嬉しく思っています。そして願わくばこの本が、2年後とか5年後、10年後ではなく、今日にも出版されて欲しいと願うものです。

私は、毎日のようにマジックについてこれほど集中的に取り組めたこと、そしてとりわけ JUAN と仕事が出来たことは、本当に恵まれていたと思っています。もし将来も彼のプロジェクトがあるのであれば、絶対に見逃したくないと思ってさえいます。そして、私が TAMARIZ の伝説のこの部分を、今日の、そして将来のマジシャン達のために紹介出来ることを誇りに思っています。

GEMA NAVARRO VINAS

2004年4月23日 BARCELONA にて

DEFINING OUR OBJECT (「VERBAL MAGIC」の定義)

箇条書きにした短い文章で、私が2003年の1年間で行ったラジオ番組から得た「VERBAL MAGIC」とは何かを説明したいと思います。その中には、客とのコミュニケーションやマジックのインパクトを高めて、客に不思議だと思う気持ちを強く持たせるための、演技の条件についても触れます。

まずは、マジシャンがいる場合にセリフだけでマジックをうまく成功させるのに必要なことを考えます。そうした、観客の参加度合いが格段に増加する、それにより驚きの程度も増加する双方向のマジックのテクニックについても述べたいと思います。

そうしたマジックは（ソリストも含めて皆で歌う）コーラスにも似た性格を持っているとも言えます。この点は、（演技の質を高めるために）コーラスが内在する、古代ギリシャの劇場から受け継がれた高貴な性格や在り方について、もっと注目し分析する価値があるでしょう。

そして最後に、全く明らかなことなのに十分に強調されていないように思えることがあります：その現代的儀式と呪文によって観客を超絶的世界へと運ぶ、マジシャンとそのマジックのパワーを高めることです。

では、始めましょう：

1. プレイングカードやペーパークリップ、コイン、鉛筆、紙などの日用品を使うこと。
2. すぐ用意出来るその他の物も可。
- 3.マジックの前提となる物語や舞台設定が面白く、心を引きつけるものであること。
- 4.マジックの展開も人を引きつけるものであること。
5. しっかりしたエンディングを持っていること。不思議なもの、不可能なことを目撃した驚き、あるいは演技から癒しと安らぎを感じることで、観客は報われるのです。
6. 直接その儀式（演技の進行）に参加していない多くの観客にとっても、それが見ていて面白いものである事。
7. しかしその「面白さ」も（下品であったり、やたらとギャグを連発する等）度を過ぎたものではないこと。エフェクトの前提とかけ離れたり、途中経過の理解を阻害するようなものはいけません。
8. 指示はマジシャンが説明し易く、客が理解し易いものであること。
9. 行うすべての作業は、客や視聴者にとって難しくないものであること。
10. すべての作業は、一定の安定したペースで行われるべきこと。つまり、指示と指示の間には適度な間を取る事。ただし、あまり時間を取り過ぎると、退屈なものとなるので注意が必要。
11. 客への指示は、出来るだけ短い言葉の単位で行うこと。例えば、「カードをカットしてください。カードを2つの山に配り分けてください」であり、「カードを分けてカットしたらカードを2つの山に配って分けてください」ではありません。
12. エンディングは、予想されなかったもの（サプライズ）であれ、予想されつつあるもの（サスペンス）であれ、「不可能」なものであること。
13. 客にはやり方の手がかりになるものは、基本的に見せず触らせないこと。ただ、視覚的なトリックや触覚を使うトリック、やり方をわざと説明するかけ事のトリックなど一部例外はあります。
14. トリックが終わった時に客は全ての途中経過を覚えているわけではありません。さらに客はカードを「シャフルした」とか「ひっくり返した」など、実際にはやっていないことを思い浮かべることもあります。手順が少しひねってあると、客は完全に思い出すことは出来ません。それが（作り出されたものではあるけれども本当の）不思議さを醸し出す要素なのです。そしてそれは（時にはその場にはないこともある）マジシャンの言葉を通して発揮される、マジシャンのパワーによります。トリックを単なる「数学的なパズル」などにはしてはいけません。客がやり方を発見する唯一の可能性は、彼が一部始終をテーブルに取っている場合です。しかし彼はテーブルで記録する手間をかけ、家でそれを何回も見ると努力をすることで、彼のそのトリックへの興味を証明することになり、おそらくマジック全般を本当に愛するようになるでしょう。その場合は、トリックのやり方が判ったとしても、かまわないと言えるでしょう。
15. うまくトリックを再構築したり、エフェクトの分析が出来るようなものは、演技の終りには残さないこと。客に、エフェクトを再構築してみようという気さえ起こさせないようにします。

すべての証拠を排除してしまいます：紙は破いてしまい、ある順番に並んだカードはすぐにデッキに戻してしまいます。

16. (話し方、言葉の選択、意味、力点、声の調子、ポーズなど)マジシャンのあらゆる表現方法とトリックの展開が、客にそのトリックがセルフワーキングであることを感じさせないものであること。その2つはセットになるものであり、マジシャンだけが呪文や特別なパワーによって展開出来るマジカルな出来事として、客が経験してくれなければまずいのです。あくまでマジシャンの指示に導かれて、客にマジカルな出来事は起きるのです。それは現代風の儀式と呪文の力なのです。

17. こうしたマジックは見た目より難しいのです。指先の器用さは必要ないですが、計算された心理的要素と、ボイステクニックが必要です。それでも、本書にあるセリフの例が、不思議で面白いことを目撃した事から来る客の驚きを大きくするのを助けてくれるでしょう。

18. 上記のことから、16. で述べた事のエッセンスを理解するに必要な努力を投入し、時間と思索を重ね、マジシャンのパワーによってマジックが起きたと思わせることが出来るのでなければ、この種のマジックはやるべきではなく、初心者向きのものとは言えません。マジシャンのパワーは、宗教的、魔術的な司祭とは違った言葉と話し方を通じて発揮されるものであり、むしろシャーマンや医者への威厳をもって話をするのです。それには3つの要素が必須となりますー(マジシャンの)個性と言葉遣い、態度です。

19. 声だけがあなたのマジックのパワーを伝える手段です。客がそれに従って正確に動いてくれるように、その言葉は明確でなければいけません。すべてをあなたの言葉と声で仕切るためには、ハッキリと知的に話し、こちらが期待する客の感情を引き起こすためにもそれぞれの言葉に必要な心理的なニュアンスを込めなければなりません。

例えば、重要でないように見せて後で客に忘れて欲しい指示があるとします。あなたは客に必要なやる事だけはさせるために、声の調子は平板なものとし、しかしその後ですぐに、何か興味深いことや重要なこと(不可能な約束やとても楽しいことなど、より強い内容の言葉)を強く感情を込めて言うと、おそらく客は、その前にやったことは忘れてしまうでしょう。

声にはマジシャンが感じた思い、例えば失敗に対する恐れやうまく行っている内心の喜びや威厳、決意などが現れるものです。これをコントロールして、声をコミュニケーションの手段として演技に活かすことを学びましょう。

20. あなたのスピーチは、「曖昧さ」が必要とされる場合以外は簡潔で、楽しいものである必要があります。話しぶりはスムーズで、言葉の選択も正確にします。言葉の意味だけでなく、その音にも注意し、その音色が与える客の感情を呼び起こす力にも注目してください。内容を確認する時以外は、同じ指示は繰り返さないようにします。特にあなたが自分で良く使う癖のある言葉は抑えるにしてください。どうしても良い細部にも触れないで、不要な言葉は省いてください。

21. エフェクトの最後には2つの動きがあります。1つはマジシャンの動きで、マジカルジェスチャーをしたり呪文を唱えたりした後に、不可能かつ魅惑的なことが無事に起こったと気づくのです。結果を見る前には、時には少しは不安な感じも見せたりします(「今度はどうなったでしょうか?」)。結果を確かめたマジシャンは喜びを表します(「どうです、この通りカードは私の手の中でひっくり返りました!」など)。

2つ目は、客に「現代風儀式と呪文」の成果を確認してもらう場面です(「あなたのカードだけが表向きになっていますか?」など)。客の驚きが表されます。

客の驚きの声を聞いたら、マジシャンは客を祝福し、お互いの成功に喜びを表しながら最後の締め
のセリフを言ってエフェクトを成功裡に終わらせるのですーまさにマジックの輝ける勝利の瞬間で
す。

第1章

数枚のプレイングカードや名刺、紙を使うマジック

PART 1 – 手始めの10のトリック

THE IMPOSSIBLE IN YOUR HANDS

(訳注：このマジックはラジオ番組での演技を前提にしています。つまり、以下の文章の中の「あ
なた」は、スタジオにいる客だけでなく多数の聴取者も含まれます。彼等がそれぞれのラジオの前で
TAMARIZ の指示にしたがってマジックをするわけです。本書のその他のマジックも同様です)

特別な魔法の波を送る事で、あなたが家でもどこにいても、ちょっと不思議なことを起してみたい
と思います。

10枚のプレイングカードを使うのですが、5枚の赤と5枚の黒のカードにしてください。もしそ
ばにデッキがなかったり、あなたが仕事であるなら、10枚の名刺やブランクの紙でもかまいま
せん。そのうちの5枚にXを書いて使ってください。

いずれにしても、色やマークによってカードを2つのグループに分けてください。

一方の組を取って、「シャフル、シャフル、シャフル」と言いながらシャフルしてください。済ん
だらテーブルに置いて、もう一方の組を持ったらまた「シャフル、シャフル、シャフル」してくだ
さい。特にPABLO、あなたがシャフルしている顔が見たいものですよ。

(訳注：PABLOはラジオ番組のMCです。シャフルをする時に「シャフル、シャフル、シャフ
ル」と言わせるのは、「面白い演出」という意味だけでなく、「シャフルを何度もした」という事
実を客の記憶に残すためだと思います)

2つの組はよくシャフルされたと思うので、左右の手に表向きで一組ずつ持ってください。まず一
方の組のフェースカードを向きのままテーブルに置いて、その上に他方の組のフェースカードを重
ねてください。これを繰り返して、色が交互になった1つの組を作ってください。

カードをテーブルから取り上げて、裏向きに手に持ってください。カードを、ゲームをやる時のよ
うにカットしてください。もう一度カットしてください。こうしてカードが次第に混じって行きま
す。もう一回カットしましょう。

誰か、さらにカットしたい人はカットしてください。カットしたくない人は・・やはりカットして
ください(観客は笑います)。ご覧の通り、すべては皆さんのやりたいようにしてもらいま
した。シャフルもカットも、です。

ではまたカードを一方の手に裏向きで持ってください。もう一方の手で別なことをしてもらいま
す。上から2枚をいっしょに重ねて取って表返して、またトップに重ねます。こうするとその2
枚以外のカードが裏向きとなります。またカードをカットしてください。

また上から2枚を一緒に取って、表向きにひっくり返して、またトップに重ねます。済んだらカードをカットしてもらいます。これで4枚のカードが表向きとなりました。以上の過程で既に表向きのカードがひっくり返されてまた裏向きになってもかまいません。表向きでも裏向きでも、カットした後にトップにある2枚を一緒に取って、まとめひっくり返してください。

さあ、カットしてください。そして上の2枚をまとめてひっくり返してください。この作業を何回か繰り返してください。カードをカットして、上の2枚をひっくり返すのです。

出来ましたか？はい、では今度は上から4枚あるいは6枚をまとめてひっくり返してください。あるいは、偶数枚なら何枚でも良いですよ。またカットしてください。これで皆さんのカードの中には、いろいろな枚数の表向きのカードがあることになります

—以下省略—

翻訳： 平賀 義達

編集：(有)フェザータッチ MAGIC

日本語版解説書©2020 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

販売：(有)フェザータッチ MAGIC

www.FTMagic.JP

